

国語

法学部・経済学部・経営学部・文芸学部・総合社会学部・国際学部・情報学部(英・国・数型)・短期大学部

(二) 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答番号は「二」の 1 から 14 までとする。

一九〇五(明治三八)年一月、東京帝国大学の講師夏目金之助^{きんのすけ}は、俳句雑誌『ホトトギス』に、『吾輩は猫である』という奇妙な小説を、「漱石」という号^{ごう}筆名のもとに発表します。中学の教科書にも載っている、多くの人によく知られた、「漱石」という小説家を誕生させたはじめての小説です。

『吾輩は猫である』は、次のように書き出されています。

吾輩は猫である。名前はまだ無い。

どこで生れたか頓^{とん}と見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニヤーニヤー泣いて居た事丈^{だけ}は記憶して居る。吾輩はここで始めて人間といふものを見た。然^{しか}もあとで聞くとそれは書生といふ人間中で一番癡悪^{どうあく}な種族であつたそうだ。

題名と同じ冒頭の第一文は、それを読む読者にとって不思議な構造をもっています。「吾輩は」という尊大な一人称の部分までは、人間世界のこととして受け入れることができますが、「猫である」というところまで読んでしまうと、いきなり読者は猫世界に引き込まれるわけです。つまり読者は猫語のわかる人間という、虚構の存在の役割を突然ふりあてられてしまったことになるのです。

人間の世界と猫の世界という二重性。人間の言葉と猫の言葉という二重性。現実と虚構という二重性。そのどちらでもなく、またどちらでもある、一つのことが二つに分裂し、二つのまったくかけ離れたことがいともたやすく一つに結合されるような言葉の運動の中に、私たちは放り込まれたのです。

この第一文によって、小説の基本構造が出来上ったことになります。人間世界では自明であたり前なことでも、猫にとって

それは異常でとんでもないことになるのです。先の引用部のすぐあとに、人間の顔についての猫のコメントがあります。「第一毛を以て装飾されべき筈はずの顔がつるつるして丸で薬缶やかんだ」。猫から見れば、毛のはえていない人間の顔は、異様で化物じみて見えるのです。

① けれども読者としては、人間の側から見れば、全体が毛で覆われている猫の顔の方が変だ、とも言えるわけです。つまり、猫世界の自明性を、人間の側から崩すことができるのです。

したがって、人間の世界と猫の世界という、価値体系をまったく異にする二つの閉じた世界が、猫の語りとそれを読む読者の意識の間で交通あひだすることになります。重要なのは、この二つの世界は閉じたまま、決して開かれていないわけではないということです。それは、「名前はまだ無い」という第二文に刻まれています。「吾輩」は、苦沙弥くしゃみという中学校の教師の家に迷い込み、とりあえずは、その家で飼われることになるのですが、「主人」である苦沙弥先生は、「吾輩」に「名前」をつけません。②

人間にとって外界の事物に「名前」をつけることは、とりもなおさず、モノやコトそれ自体として存在する対象を、言葉に置き換え、意識の中にとり込んで認識することのできる指示対象にしてしまうことです。あるいは、モノやコトそれ自体の全体性についてはまったく認識していないにもかかわらず、「名前」をつけることでわかったつもりになって、自分の世界にとり込んでしまうことにほかなりません。

「名前」をつけないという苦沙弥先生の態度は、本人が意識しているかどうかは別にして、「吾輩」という猫を、言葉にしてしまうことで、人間世界に回収することを拒み、人間世界に対する猫の他者性を保持しつづけていることになり、その結果として猫の自由が確保されていくことになります。「吾輩」は確かに「主人」と言っていますが、「名前」が無いということは、奴隷のように、あるいは一般の飼った猫のように、「主人」に

8 のです。

「吾輩」に「名前」が無いという設定は、人間の世界と猫の世界という、一つの世界を二つに分裂させた領域を、いわば相互に閉じたまま、その異質性と差異性を保持したまま、かつきわだたせながら交通させることを可能にしているのです。

苦沙弥先生の家に居候^{いそうろう}することになった「吾輩」は、その書齋に自由に出入りし、日記を盗み読みするようになります。

面白いことに、一二月一日の日記では、「吾輩」という一人称が使われているのに対し、四日には「僕」という一人称が使用されているのです。いずれも習い始めたばかりの水彩画のことが書かれているのですが、他人に対していたけだかになっているときに「吾輩」で、水彩画がなかなか上達しなくて、自信を無くしたときは「僕」になっているわけです。

たった一つの一人称単数代名詞「I」しかもたない英語を教えている教師が、自分の日記の日本語では、複数の一人称的言葉を使いわけていることがわかりますし、その使いわけは自己意識の在り方の違いによって規定されてもいます。そして、他人に対して強気になったときの「吾輩」という一人称において、苦沙弥は猫と重なってくるのです。またそのことから猫が使用する「吾輩」という一人称に込められた自己意識の在り方をソクテイすることもできます。「吾輩」と自己規定する猫の人間に対する姿勢は、他人に対していたけだかになったときの、苦沙弥の自己意識とツウテイ^(b)しているわけです。

(中略)

井上ひさしさんは、かつて『吾輩は漱石である』(集英社、一九八二)という、大変ガンチク^(c)に富んだお芝居を書きました。この題名のつけ方を見たとき、私は虚をつかれた思いを抱きました。⁽⁴⁾なぜなら、小説の題名という自明性に目が眩^{くら}んで、「吾輩」という一人称が、傍にずらして印刷されている「漱石」という筆名とこそ、最も結びつくべき言葉であることを忘れてしまっていたからです。

「吾輩は漱石である」と変換してみると、これまでの研究や批評の中で、それなりに通説化されていた、苦沙弥先生が現実の漱石であるといった単純なモデル論は誤りだということになります。「吾輩」こそが「漱石」なのです。あるいは、「漱石」は「猫」なのです。井上さんのお芝居を観て以来、「漱石」は「猫」である、という見方が私にとって俄に大きな意味をもつようになってきたのです。

「猫」の人間世界に対する批判は、猫語に翻訳された「漱石」自身の文明批評であり、「猫」が盗み聴きをして、読者である私たちに報告してくれる苦沙弥家に集まる「太平の逸民」たちの無駄話もまた、無駄話の体系に翻訳された「漱石」の現実

批判であることがわかってきました。苦沙弥だけではなく、迷亭も寒月も独仙も東風も、それなりに「漱石」の分身なのです。物理学者である寒月君のモデルが、熊本第五高等学校時代の教え子、寺田寅彦であるということは、あまりに有名なことです。が、それもやはり「寒月」と「寺田寅彦」という二重性とその引き裂かれの中での、虚構世界と現実世界との間のゆらぎと考えるべきなのでしょう。

人間世界のこと「漱石」の分身性における文明批評だとすれば、一章・二章・五章にギョウシユクされてあらわれ、あとはごくビサイな断片としてだけ記される猫世界のことはどう位置づければいいのでしょうか。ここで井上さんに倣って「11」という筆名の裏に隠された本名に変換してみます。すると、「猫」である「吾輩」の体験の背後から、とても生々しい「夏目金之助」としての「吾輩」の経験が浮かびあがってくることになるのです。

先に引用した、冒頭の一節に戻ってみましょう。「吾輩」には「どこで生れたか」という「記憶」がありません。ただ「薄暗いじめじめした所でニヤーニヤー泣いて居た事文」を「記憶して居る」のです。そして、この最初の「記憶」、自分自身で自分を振り返ったときに浮かんでくる「記憶」の中の最初の自己像は、同じ「猫」族にかこまれたものではなく、いきなり異族である「人間といふ」「種族」とともにあるのです。このように構成された「吾輩」の出生の「記憶」とほぼ同じ形で、「漱石」は、「夏目金之助」としての自らの生い立ちを、だいぶ後になってから告白することになります。

私の両親は私が生れ落ちると間もなく、私を里に遣つてしまった。其里といふのは、無論私の記憶に残つてゐる筈がないけれども、成人の後聞いて見ると、何でも古道具の売買を渡世にしてゐた貧しい夫婦ものであつたらしい。

私は其道具屋の我楽多と一所に、小さい笹の中に入れて、毎晩四谷の大通りの夜店に曝されてゐたのである。それを或晩私の姉が何かの序に其所を通り掛つた時見付けて、可哀想とも思つたのだらう、懐へ入れて宅へ連れて来たが、私は其夜どうしても寝付かずに、とうとう一晩中泣き続けに泣いたとかいふので、姉は大いに父から叱られたさうである。

夏目金之助がこの世に生を享けたのは、一八六七（慶応三）年二月九日（旧一月五日）。このとき父夏目小兵衛直克は五〇歳、母ちゑは四二歳。平均寿命が長くなった現在でさえ、子どもが生まれる年齢としてはかなりの高年齢です。しかもこの頃は、「人生五十年」が常識的な寿命であったわけです。実際このとき生まれた金之助自身の生涯も五〇年間です。

金之助は、世に言う「恥かきっ子」として、夏目家の末子としてこの世に生を授かりました。^⑥「金之助」という本名自体、「庚申」の日に生まれた子どもは大泥棒になるから、それを避けるために「金」の字をつけておくといい、といった俗信に由来しているのです。

両親は、金之助が生れた事実を隠すかのように、まずは古道具屋の夫婦に、そして一年後の一八六八（明治元）年一月に、正式に塩原昌之助とやす夫婦のところに、養子にやることにしたようです。

「どこで生まれたか」もわからず、「ニヤーニヤー泣いて居た」という「記憶」の初源に、異族の姿しかないという「猫」の告白は、そのまま金之助が、ものごころがつく年齢になって以後、夏目家に戻って、「成人」した後に関わられた物語と重ねられているのです。「漱石」は「猫」である「吾輩」の言葉を借りて、「金之助」としての自分の心の中にわだかまっていた、出生と、その後の養子にやられたことをめぐる屈折を表象しているわけです。

（小森陽一『漱石を読みなおす』による。ただし、小見出しと本文の一部を省略し、引用部分の繰り返し符号を改めた）

問一 二重傍線部①～⑤の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各項の中からそれぞれ選び、その番号をマークせよ。

1 ① ソクブツ的な表現 2 土地のソクリヨウ

3 販売のソクシン 4 選挙のソクホウ

2 ② テイキ券の発行 2 課題のテイシユツ

3 三角形のテイヘン 4 操業テイシ

3 ③ タイガン成就 2 ガンケンな身体

3 令和ガンネン 4 金のガンユウリヨウ

4 ④ カラスのギョウズイ 2 ギョウカイ岩

3 シュウギョウ規則 4 業界にツウギョウしている

5 ⑤ 旧友とのサイカイ 2 コウサイ相手

3 巧妙なサイク 4 サイダイ公約数

問二 傍線部①はどういうことか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6 1 人間にとっては当たり前の事柄を猫に教え込むこと

2 猫の顔の方が変だという事実を人間が明示すること

3 人間より猫の方が下等だという神話を否定すること

4 猫にとっての常識を人間の視点から相対化すること

問三 傍線部②は何を示しているか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

- 1 そこに存在する対象（猫）を言語に置き換え、自身が認識する指示対象にしている
- 2 モノやコトそれ自体の全体性は認識できなくとも、その対象のことを理解している
- 3 「吾輩」という猫を人間世界に回収することなく、その他者性を保持し続けている
- 4 「名前」が無い猫は一般の飼い猫以下の存在であり、飼い主が責任を放棄している

問四

空欄

8

に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

8

- 1 愛玩されてはいない
- 2 かしずいてはいない
- 3 放置されてはいない
- 4 所有されてはいない

問五

傍線部③の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

9

- 1 他人に対して苦沙弥が「吾輩」という一人称を用いるのと同様に、猫の使う「吾輩」も強気な性格を表している
- 2 英語教師である苦沙弥にとっての日本語と同じように、「吾輩」も猫としての自己意識を脱することができない
- 3 苦沙弥が「吾輩」と「僕」という一人称を使いわけているように、猫である「吾輩」の自己意識も分裂している
- 4 強気になった時に苦沙弥が使う「吾輩」という一人称が、猫の「吾輩」という自己規定に影響を及ぼしている

問六 傍線部④の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

10

- 1 作家の魂とも言うべき小説の題名に手を加えることなど到底考えられなかったから
- 2 「吾輩」と「漱石」の関係についてこれまでになかった新たな観点を得られたから
- 3 あまりに有名な作品なので題名の自明性に関して深く考えることを忘れていたから
- 4 「吾輩」と「漱石」という二つの名が隣り合っていることに初めて気がついたから

問七 空欄

11

に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

11

- 1 吾輩は猫である
- 2 吾輩は苦沙弥である
- 3 吾輩は漱石である
- 4 吾輩は夏目金之助である

問八 傍線部⑤の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

12

- 1 猫世界には「金之助」としての自身の生い立ちが「吾輩」の体験を通して表象されている
- 2 生々しい「金之助」の不幸な経験が「漱石」というフィルターを通して虚構化されている
- 3 猫である「吾輩」の背後には人間としての「漱石」と「金之助」の文明論が隠されている
- 4 共に作者の分身である「金之助」と「吾輩」の生々しい関係が猫の言葉で告白されている

問九 傍線部⑥は何を示唆しているか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 「金之助」という命名は泥棒の存在を嫌悪する正義感にも由来していたということ
- 2 金之助が世間体や俗信ばかり気にかける親から存在を軽く扱われていたということ
- 3 庶民的な民間伝承を信じる浅薄な心性が金之助の命名に反映していたということ
- 4 名前の「金」の一字には両親の金銭に対する強い執着心が垣間見られるということ

問十 傍線部⑦は何を示唆しているか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ

- 1 人間の家で育った「吾輩」は他の猫族とは異質で疎外感を味わっていた
- 2 出生後すぐに捨てられた「吾輩」は気がつけば人間たちに囲まれていた
- 3 幼少年期の金之助は里親や養父母など血の繋がらない他人に育てられた
- 4 金之助の最初の記憶には周囲の親たちと異なる高齢の父母の姿があった

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。 解答番号は〔二〕の 1 から 8 までとする。

〔宮〕は妻亡き後、娘たちを一人で育てていた

春のうらかなる日影に、池の水鳥どもの翼うちかはしつつかおのがじし囀る声などを、常ははかなきことと見たまひしかども、つがひ離れぬをうらやましくながめたまひて、君たちに御琴ども教へきこえたまふ。いとをかしげに、小さき御ほどに、とりどり掻き鳴らしたまふ物の音どもあはれにをかしく聞こゆれば、涙を浮けたまひて、

「うち棄ててつがひさりにし水鳥のかりのこの世にたちおくれけん」

心づくしなりや」と目おし拭ひたまふ。容貌いときよげにおはします宮なり、年ごろの御行ひに痩せ細りたまひにたれど、さてもあてになまめきて、君たちをかしづきたまふ御心ばへに、直衣の姿えはめるを着たまひて、しどけなき御さまいと恥づかしげなり。

姫君、御硯をやをら引き寄せて、手習のやうに書きませたまふを、「これに書きたまへ。硯には書きつけざなり」とて紙奉りたまへば、恥ぢらひて書きたまふ。

⑤ いかでかく巢立ちけるぞと思ふにもうき水鳥のちぎりをぞ知る

よからねど、そのをりはいとあはれなりけり。手は、生ひ先見えて、まだよくもつづけたまはぬほどなり。「若君も書きたまへ」とあれば、いますこし幼げに、久しく書き出でたまへり。

⑥ 泣く泣くもはねうち着する君なくはわれぞ巢守りになるべかりける

御衣どもなど萎えはみて、御前にまた人もなく、いとさびしくつれづれげなるに、さまざまいとらうたげにてもものしたまふをあはれに心苦しう、いかが思さざらん、絛を片手に持たまひて、かつ読みつつ唱歌もしたまふ。姫君に琵琶、若君に箏の御琴を。まだ幼けれど、常に合はせつつ習ひたまへば、聞きにくくもあらで、いとをかしく聞こゆ。

※巣守り……孵化せず^{ふか}に巣の中に残っている卵

問一 二重傍線部①～④のうち、他と働きの異なるものを一つ選び、その番号をマークせよ。

- | | | | | | |
|---|---|----------|---|---|----------|
| 1 | ① | いとをかしげに | 2 | ② | 小さき御ほどに |
| 3 | ③ | あはれにをかしく | 4 | ④ | あてになまめきて |

問二 傍線部①は何の音か。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 娘たちがめいめいに弾く琴の音色 |
| 2 | 池の水鳥たちがそれぞれに鳴く声 |
| 3 | 娘の琴と水鳥の声とが織りなす音 |
| 4 | つがいの鳥が翼をはばたかせる音 |

問三 傍線部②の意味内容として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- | | |
|---|---|
| 1 | (母鳥を失った) 水鳥の子たちは仮のこの世に残された私への形見であったのだろう |
| 2 | あなたは(母鳥を失った) 水鳥の子らを仮のこの世から連れていかなかったのだなあ |
| 3 | (母鳥を失った) 水鳥の子たちは仮のこの世の動きからも立ち遅れてしまうのだろう |
| 4 | なぜ仮のこの世に(母鳥を失った) 水鳥の子ばかりが取り残されてしまったのだろう |

問四 傍線部③の意味内容として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

4

- 1 不断に続く苦行
- 2 長年にわたる勤行
- 3 妙齡の人の品行
- 4 未熟さゆえの非行

問五 傍線部④の意味内容として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

5

- 1 艶やかなお姿は、見ているこちらが恥ずかしくなる程なまめかしい
- 2 古びた着物のだらしないご様子を、とても恥ずかしがっておいでだ
- 3 とりつくるわぬお姿は、見る者の気が引けるほど奥ゆかしく美しい
- 4 一見無造作なご様子は、実の所驚くほど洗練された着こなしである

問六 傍線部⑤の意味内容として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6

- 1 我が身を嘆く姫君の歌の出来はよくないが、時を得ていて深く心を動かされた
- 2 硯に文字を書く幼さは残るが、上手に歌を詠む姫君の成長は感慨を覚えさせた
- 3 硯の扱いに行儀の悪さは見えるが、懸命に歌を書く姿にはしみじみさせられた
- 4 恥ずかしがる態度はいただけないが、技巧の光る歌自体はとても趣が深かった

問七 傍線部⑥の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

- 1 幼いながらに池の水鳥の巣をよく観察して詠んだ歌である
- 2 姉が勧めるのに従って久しぶりに紙に書き付けた歌である
- 3 自らを孵化せぬ卵にたとえて君への未練を詠んだ歌である
- 4 父の加護がなければ生きて行けぬと自覚している歌である

問八 本文の内容と合致しないものを、次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

8

- 1 いつもは何とも思わなかった水鳥の様子は、妻を亡くした今の宮にはうらやましく見えた
- 2 姫君のてのひらには、成長した将来の見目麗しい姿を想像させる美しさが垣間見えていた
- 3 没落した家で宮は読経に精を出しつつ、可愛らしい娘たちの苦労を思って心を痛めていた
- 4 幼い姉妹はいつも楽器を合わせていたので、風情ある音色を奏でられるようになっていた

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答番号は〔三〕の 1 から 8 までとする。

都の貴人が失意のうちに離京し、身をやつしてはるばると東国へくだってゆく。

途中、たまたまかいま見た土地の女と一夜の契りをむすぶが、さげがたい事情のため、翌朝男はわかれてゆく。古代から、いくどとなくくりかえされた貴種流離・妻まぎ譚の話型である。ここでの男主人公の名は、源義経、平家の手をのがれて、奥州平泉へくだる途中である。女主人公は、浄瑠璃姫、三河国矢作やはぎの宿の長者（遊女の長）が、国司の源中納言兼高とのあいだにもうけた、鳳来寺ほうらい薬師如来の申し子だという。

室町時代物語の浄瑠璃物語（浄瑠璃御前物語、浄瑠璃十二段草紙とも）は、まず浄瑠璃姫の出生から語りだされる。矢作の長者は、子のないことを悲しみ、鳳来寺（峯の薬師）に祈誓して子だねをさずかる。薬師瑠璃光如来の申し子であるから、また、生まれた子が珠玉のごとく美しい女兒であったから、浄瑠璃姫と名づけられる。つづいて、話は御曹子かいま見の場面となる。義経の視点からみた姫のすまいが、四方四季の仙境として細叙され、ふたりの出会いへと展開するのだが、この場面接合の 1 不自然さが、物語の中心部分と、申し子譚との成立の異質性をおもわせる。

たとえば、柳田国男は、申し子譚の祖型として、矢作地方につたわる鹿姫の異常出生譚を考えている。貴種の妻まぎ譚と連接する以前に、在地の神子誕生のカタリゴトがあつて、その福德栄華に一つ欠けることのないのを述べたのが、この語り物の祖型だったという（「和泉式部の足袋」定本第八卷、「小野於通」同第九卷）。

ヒロインが神子、すなわちミコ（巫女）であるなら、それが尊い配偶者（じつは神）を婿にむかえるのは、神話の論理の延長上で理解できる。また、そこに生まれる子が、在地のある家（多くのばあい土地の神官）の始祖伝承と功利的にむすびつくのも、ほんらいの神話の約束事としてあつたろうか。けれども、現存の物語では、そこで生まれるべき尊い血筋については、^②なにもふれていない。姫の御曹子への愛は、けっきよく功利的なたちでは報われることなく、だから、神仏の申し子（＝神

子)という冒頭にしても、つぎつぎの物語の展開のなかでは奇妙に浮いてしまいかたちになる。江戸時代にあらわれた一部の版本には、申し子の初段を削除した例さえある。

おなじ海道下りの貴種で、義朝の遺児を婿にむかえるなら、あるいは義経の異腹の兄、頼朝でもよかっただろうか。

平治の乱後の頼朝の伊豆流罪・流離説話は、曾我物語や、平家物語の読み本系とよばれる伝本(源平闘諍録、ほか)にとられている。流離する貴種Ⅱ頼朝と、それを婿にむかえた北条氏の末繁盛を語るもので、貴種流離・妻まぎ譚の神話的な話型が、在地の共同体と功利的にむすんだ一例である。③もちろんそこで義経ではぐあいが悪いわけだ。④ということは、浄瑠璃姫が一地方の在地的功利性をぬけ出るには、どうしても、敗北した貴種を婿にむかえる必要があった、あるいは、この話が、海道筋の非定住の語り手にひろわれた時点で、その物語としての成長の経路も決定されていたといえようか。

現存の記録から知られるふるところでは、この物語の語り手は、室町末期には琵琶法師だったようだ(『宗長日記』^⑤『言経卿記』^⑥『言継卿記』)。だがその内容からして、この物語がもとは巫女・比丘尼の語り物だったことはたしかである。たとえば、姫とわかれてのち、駿河国吹上で病いにたおれた義経が蘇生する段。姫の献身的な愛の口説きが、ほとんど女性の語り口そのままをうつしている。

「いかに候ふ、都の殿。一夜の契りに馴れそめし浄瑠璃これまで参りたり。いかなる定業にてましますとも、みづからこれまで参りたる志のほどを受け給ひて、今一度よみがへらせ給へ」と、胸に当て、顔に当て、流涕焦がれ給へども、その甲斐さらになかりけり。姫君あまりの悲しさに、潮水にて手水うがひをして、天に仰ぎ……(中略)……と、肝胆をくだき祈り給へば、不思議や、諸神諸仏の御はからひにや、浄瑠璃御前の泣かせ給ふ御涙、御曹子の口の中へ流れ入り、不死の薬となり、少し息出でさせ給ひける。

恋人の蘇生は、説経節などでもなじみの趣向である。しかし、涙が口にはいったための蘇生というのは、ちょっとほかに類

をみない可憐な結構だ。この物語の語り手が女性であり、また村々の聴き手がいつに那辺にあつたか、わかうというものだ。さきに述べた、ヒロインが子を産まないことにも、おそらく、語り手じしんの社会的位相がかさねあわされる。薬師の靈験をとく遍歴・遊行の女性（＝遊女）が、浄瑠璃姫を語（^{かた}騙）るばあいもあつた。歌のたくみな上臈（^{じょうろう}）をヒロインとして、その薬師靈験譚をかたり歩く女性が浄瑠璃姫だったわけで、それが時には、小野小町や和泉式部をも僭称（^{せんしょう}）したらしいことは、「南無薬師」の伝説歌（いわゆる「瘡（^{かさ}）の歌」）の分布状況からも知られる。それからヒロインの寡産といえ、源氏物語の紫の上がそれだった。そこには、紫式部という語り手の実像が微妙にかさねあわされる。王朝の女流にしても、その精神の位相において、共同体との神話的な紐帯（^{ちゆうたい}）を喪失した古代巫女の末裔（^{まつゑ}）だった。

非定住の女の語り手たちが、在地村々の婦女子のなぐさみに、こうした無償の恋の物語をかたり歩いていた。その「奉献物揃え」から始めて、「花揃え」「美人揃え」「草子揃え」「経巻揃え」とつづく揃え物のくりかえし、また単調な大和詞による恋ぶみの類型、さらに「縫物の段」の詳細をきわめた衣裳描写など、それらに今日の私たちがときに退屈をあげわうにしても、しかし、そんな類型的な美辞麗句にひたすら陶醉できた語りの場をおもすべきなのだ。

物語のテキストは語り手へむけてひらかれている。語り手の遊行の道行、また彼女たちの社会的・精神的な位相が、ヒロインの悲劇の境涯にそのまま投影する。共同体との神話的紐帯を喪失して、むくわれぬ愛を生きる女主人公の造型が、たとえば元禄の近松によって、その心中物のヒロインとして主題的に深化される。とすれば、王朝の女流と、近松のヒロインたちとをつなぐ結節点に、この浄瑠璃姫を置いてみる（文学史）も可能になる。もちろんそのばあいの浄瑠璃とは、彼女たちの曲節（^{メロディ}）でかたられた複数の語り物の総称であるし、そしてなによりまず、それらをかたり歩いた無名の女たちの名であつたにちがいない。

問一 空欄 1 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

1

1 木で竹を割ったような

2 竹に酒をついだような

3 木に竹をついだような

4 竹から生まれたような

問二 傍線部①が確立したとされる学問として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

2

1 民俗学

2 民族学

3 考古学

4 文献学

問三 傍線部②の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

3

1 場面接合の不自然さが尊い血筋を生む展開を不可能にしたから

2 無償の愛の物語のほうが功利的な結合より共感を得られたから

3 語り手が自身の社会的な位相を主人公に重ね合わせていたから

4 報われない愛を生きるヒロインが神話の論理に適っていたから

問四 傍線部③の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

4

1 義経は敗北した貴種だから

2 義経は嫡子ではないから

3 義経は血筋が定かでないから

4 義経自身が功利的だから

問五 傍線部④はどういうものか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

5

- 1 在地の共同体の始祖伝承として発展する
- 2 申し子譚が妻まぎ譚と連接を深めていく
- 3 一地方の説話から抜け出て語り歩かれる
- 4 海道下りの貴種流離譚に転じて定着する

問六 傍線部⑤は何を意味するか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6

- 1 共同体に帰属していない女性が語るものだった
- 2 女性の男性に対する献身的な愛を称揚していた
- 3 仏教的説話を女性的な語り口で語り直していた
- 4 琵琶法師の語りが性別を問わず継承されていた

問七 傍線部⑥の理由はどう考えられるか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

- 1 有名な歌人の名を借りることで物語にリアリティを持たせようとしたから
- 2 浄瑠璃姫の物語には小野小町や和泉式部のイメージが投影されていたから
- 3 小野小町も和泉式部も伝承の中で遊行する女性として表象されていたから
- 4 実在の歌人が物語のヒロインとなっていく過程に共通する要素があるから

問八 本文の内容と合致しないものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 浄瑠璃物語は非定住の女性の語り手たちが共同体の女性たちに向けて語った非定住の女性の物語である
- 2 共同体との神話的な紐帯を喪失した語り手の社会的・精神的な位相が浄瑠璃物語の主人公に投影された
- 3 今日では退屈にも感じられる浄瑠璃姫の類型的な恋物語は女性読者の陶醉によって受け入れられていた
- 4 浄瑠璃物語における女主人公の造型を介して源氏物語から近松の心中物に至る一つの系譜が形成される

(以下 余白)